Hiroshima Journal of International Studies Volume 29 2023

成都方言における“给”の文法的機能について

藤原　優美

A Study on the Construction of “Gei” in the Chengdu Dialect

Yubi FUJIWARA

There are multiple meanings and usages of the Chinese character “Gei” in modern Chinese, and various previous studies have been conducted on this topic. In addition to being a verb that can mean “to give” or “to bestow,” “Gei” can also function as a causative marker or a passive marker, among other grammaticalized functions. “Gei” is also present in the Chengdu dialect, and it is commonly used in daily life.

This study aims to investigate the usage of “Gei” in the Chengdu dialect, providing a comprehensive overview of its meanings and usages in comparison to Mandarin (Standard Chinese).

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．先行研究及び本研究の理論的枠組み
　１．普通話（共通語）における“给”構文に関する先行研究
　２．成都方言における“给”構文に関する先行研究
　３．先行研究に残された課題
　４．本研究の理論的枠組み及び研究方法
Ⅲ．成都方言における“给”構文について
　１．動詞としての意味・用法
　２．介詞としての意味・用法
　３．連詞としての意味・用法
Ⅳ．おわりに

Ⅰ．はじめに

“给”構文は現代中国語において、重要な文法項目の一つであり、いくつかの意味･用法がある。『現代漢語詞典（第七版）』（2016）では、“给”は動詞、介詞[1]、助詞として用いられると示している。異なる品詞性や意味･用法が多岐にわたることで、これまでに多くの先行研究が行われてきた（向若 1960、朱徳熙 1979・1980・1982、呂叔湘 1980、沈家煊 1999、杉村 1994・2006 など）。

一方、成都方言においても日常生活で“给”はよく使われることばである。普通話（共通語）と同じ意味・用法もあれば、成都方言にしか見られない意味・用法もある。

（1-1）**我　给　　她　　一本　书。**
　　私　あげる　彼女　一冊　本
　　（私は彼女に本を一冊あげる。）[2]
　　（『成都方言詞典』1998）

（1-2）**找　　个　　人　给　　他　带路。**
　　探す　量詞　人　～に　彼　道を案内する
　　（誰かに彼を案内してもらう。）
　　（『成都方言詞典』1998）

（1-3）**你　　给　他　一组。**
　　あなた　と　彼　1 グループ
　　（あなたは彼と同じグループになる。）
　　（『成都方言詞典』1998）

上記（1-1）では“给”は「あげる」という意味を表す動詞であり、（1-2）では“给”は案内す

キーワード：成都方言　给　授与　動詞　介詞

る対象を示し、介詞として用いられている。この二つの意味・用法は普通話（共通語）においても同じものがある。（1-3）では、“给”は“和”、“跟”、“与”と同じ、並列関係を表す連詞[3]として使用されている。これは普通話（共通語）に見られない意味・用法となる。

さらに、張一舟・張清源・鄧英樹（2001:322）では、「普通話には“给给你”という使い方がない、“给你”を使う。（中略）しかし、成都方言では、“给给N”という用法はある」と指摘している。

よって、成都方言における“给”の意味・用法は多様で複雑であると言える。本研究では、成都方言における“给”の意味・用法の全体像を明らかにすることを目指し、普通話（共通語）との対照も兼ねながら考察・分析を行いたい。

Ⅱ．先行研究及び本研究の理論的枠組み

１．普通話（共通語）における“给”構文に関する先行研究

これまでの先行研究はさまざまな視点から“给”構文について分析していた。例えば、“给”の品詞性に着目して論じたもの（向 1960、施关淦 1981 など）や、とりわけ動詞後に付く“给”について、後置の介詞なのか（鍾隆林 1959）、補語になるのか（张纯鉴 1980、劉月華・潘文娯・故韡（中国語版 1983、日本語版 1996）[4] など）、あるいは動詞と組み合わせた複合語を見なすべきなのか（呂（中国語版 1980、日本語版 1992）[5]、杉村 1994、沈 1999 など）を議論した研究がある。数多い先行研究の中で、“给”構文の意味・用法を重点的にまとめて考察したのは、呂（1992）、朱（中国語版 1982、日本語版 1995）[6]、劉・潘・故（1996）などがあげられる。

呂（1992）では、“给”を動詞、介詞、助詞として用いられる場合の意味・用法を中心に論じた。動詞として使う場合、「相手に与える」、「相手にひどい目にあわせる」、「許す、…させる」といった意味・用法がある。介詞として使う場合、「物や伝達を受け取る者」、「動作の受益者」や「動作の被害者」を導くほかに、“给我”という形で動詞を付けて命令文に用いた際、“为我”“替我”に同じ、または「命令の口調を強め、話しての意志を示す」ことができる。さらに、「…に向かって、…に対して」や受身を表し、「…される」の意味・用法もある。助詞として使う場合、能動文または受身文に用いる。

朱（1995）は、介詞[7]の“给”には主として二つの用法があると述べた。一つは、受動者主語文に動作者を導入することであり、その働きは“叫、让、被”と似ている。もう一つは、利益もしくは損害を受ける間接関与者を導入することである。

劉・潘・故（1996）では、“给”は対象を表す介詞と分類され、「行為・動作の与え先を表す」。具体的に見れば、「物や事柄の受け取り手」や「動作・行為による受益者」を引き出す、「動作・行為の対象を表し、“朝”“向”“对”の意味をもつ」、「動作・行為の仕手を表し、“被”の意味に相当する」といった意味・用法がある。さらに、口語では“给＋我”の形がよく命令文の中に使われ、強制や命令を表すと指摘している。一方、“给＋名詞”の使い方について、動詞の前に使うのか、動詞の後ろに付くのかという視点から比較した。そこで、「動詞の前にある時は状語になり、事物の受領対象または動作の奉仕対象を表す」（劉・潘・故 1996：529）。「動詞の後に置かれた時は、“给”は結果補語で、そのはたらきは事物の受領対象を引き出すことにあり、名詞は受領者を表す」（劉・潘・故 1996：530）という結論に至った。

以上の先行研究を見れば、研究視点や解説は違いがあるものの、まとめてみると、普通話（共通語）における“给”は動詞、介詞、助詞として用いることがわかる。なお、“给”が動詞の前で使われる場合と、動詞の後ろに付く場合、その文法的意味・用法について研究者による見解がわかれている。動詞後の“给”は後置の介詞（鍾 1959）以外、補語になるという考え方（张 1980、劉・潘・故 1996 など）もあれば、「動詞＋“给”」は複合動詞と見なす（呂 1992、杉村 1994、沈 1999 など）考え方もある。そのため、本研究では、動詞の後ろに付く“给”について本研究の見方を示す上で考察を進めたい。

２．成都方言における“给”構文に関する先行研究

普通話（共通語）のほか、北京方言（俞敏 1983、徐丹 1992 など）、蘭州方言（泉 1986、李炜 1987 など）、烏魯木斉方言（周磊 2002 など）、太原方言（沈明 2002 など）など、方言における“给”

構文に関する先行研究も行われていた。

一方、成都方言における“**给**”構文についての研究はそれほど多いとは言えないが、『成都方言詞典』（1998）、張・張・鄧（2001）などがあげられる。

『成都方言詞典』（1998）では、“**给**”の意味・用法を六種にまとめた。

①相手に何かを与えるまたは遭遇させる。

例：　**我给她一本书。**

（私は彼女に本を一冊あげる。）

②動詞の後ろに用いて、授与の意味を表す。

例：　**送给他一本书。**

（彼に本を一冊送ってあげる。）

③介詞、行為の対象を表す。

例：　**找个人给他带路。**

（誰かに彼を案内してもらう。）

④“**跟**”、“**向**”と同じ、動作の対象を導く。

例：　**她都走了多远了，还在给我们招手。**

（彼女はずいぶん遠くに行っても、まだ私たちに手を振り続けている。）

⑤“**叫**”、“**让**”

例：　**她买了一节料子给婆婆做衣服。**

（彼女は布を一片買って、おばあさんに服を作ってもらう。）

⑥“**和**”、“**跟**”、“**与**”と同じ、連詞[3]として用いて、並列関係を表す。

例：　**你给他一组。**

（あなたは彼と同じグループになる。）

張・張・鄧（2001）では、成都方言における介詞としての“**给**”について、普通話（共通語）との違いを示しながら考察した。そこで、以下の結論が得られた。

①成都方言における“**给**”の後ろに必ず関与者を表すことば、すなわち介詞の目的語が必要である。普通話（共通語）の“**给**”は直接にVPの前に使うことができて、目的語がなくてもよい。例えば、**房间给收拾好了**（部屋がすっかり片付いた）/ **杯子叫我给打碎了**（コップは私によって割られてしまった）など。しかし、成都方言の“**给**”にはそのような用法がない。

②成都方言には“**给给**＋N”という用法がある。例えば、**这是他的东西，你给给他嘛！**（これは彼の物なので、渡してあげてね）など。なお、“**给**＋N”の構造について直接に指摘していないが、“**给**”の発音に関する説明では、動詞の“**给**”は［ke^{1}］と読み、介詞の“**给**”はよく［ke^{1}］または［kən^{1}］と読む。“**给给**”の場合、［ke^{1}ke^{1}］または［ke^{1}kən^{1}］と読めるが、［kən^{1}kən^{1}］とは読まないと示しているため、“**给给**”は「動詞＋介詞」の構造だと見なすことがわかる。

③“V＋**给**＋N1＋N2”の文において、Vは「授与」と「取得」両方の意味を含める場合、「取得」を表す場合は“**给**”を使わなくてもよい（例：**借你一支笔**（あなたから筆を一本借りる））が、「授与」を表す場合は、必ず“**给**”を使う（例：**借给你一支笔**（あなたに筆を一本貸してあげる））。

④“V＋**给**＋N1＋VP”の文において、Vは「授与」や「取得」に限らないが、“V＋**给**＋N1”の使い方はなく、VPを付ける必要がある。例えば、**魔术咋个耍，你耍给我看**（マジックはどうやってするの？やって私に見せて）などである。なお、文の意味がはっきりしていて、Nは“**给**”の関与者であることも明白の場合（人称代名詞や人名を表す語）、“**给**”を省略してもよい。例えば、**他在那儿住，我指你看**（彼はあそこに住んでいる。あなたに指し示す）などとなる。

なお、③④については、普通話（共通語）との違いは述べていない。

３．先行研究に残された課題

これまでの先行研究は普通話（共通語）における“**给**”構文についてのものが多い。先行研究を通してある程度、“**给**”構文の意味・用法を知ることができるが、それは成都方言を含めたすべての方言にあてはまるとは限らない。上述の内容でもわかるように、成都方言における“**给**”構文の意味・用法は普通話（共通語）と同じものもあれば、成都方言にしかない独自のものもある。本研究では、その意味・用法の全体像を明らかにしたい。

一方、成都方言における“**给**”構文の先行研究には、まだ説明不足や内容が少し曖昧になるところがある。例えば、『成都方言詞典』（1998）は“**给**”の意味・用法を六種とまとめたものの、品詞についてはすべて提示していない。具体的に見れば、Ⅱ.2の③は「介詞」、⑥は「連詞」と書かれているが、その他①、②、④、⑤は記述していない。

中には、例えば、Ⅱ.2の①のように品詞を判断できるものもある。Ⅱ.2の①の例文“**我给她一本书**”（私は彼女に本を一冊あげる）から、“**我**”は主語で動作主、“**她**”は間接目的語で受領者、“**一本书**”は直接目的語で対象物、“**给**”は「授与」という意味を表す動詞であることが判断できる。しかし、その他はすぐには判断しにくい。

Ⅱ.2の②の例文“**送给他一本书**”（彼に本を一冊送ってあげる）において、“**给**”は動詞の後ろに付いている。これは研究者の見解がわかれているところであり、介詞なのか、補語とするのか、それとも動詞と一緒に複合語と見なすのか、定められないため、あえて書いていないのだろう。Ⅱ.2の④の解釈に「“**跟**”、“**向**”と同じ」が書かれているが、“**跟**”と“**向**”は複数の品詞として用いることができるため、どれに対応しているのか不明である。Ⅱ.2の⑤の場合、「“**叫**”“**让**”」のみと示しているため、いくつかの意味・用法を持つ“**叫**”“**让**”のどれに当たるのか不明である。また、成都方言がわからない場合、例文を読んでも意味・用法がわからない。

さらに、例文の“**她买了一节料子给婆婆做衣服**”について、前文がないため、解釈は複数できる。一つ目は、おばあさんが服を作りたがるため、彼女は布を一片買ってあげた。この場合、服を作るのはおばあさんになる。二つ目は、彼女がおばあさんに服を作ってもらいたいため、布を一片買った。この場合、服を作るのもおばあさんになる。三つ目は、彼女がおばあさんに服を作ってあげたいため、布を一片買った。この場合、服を作るのは彼女または他の誰かになる。仮に辞典にある掲載されている“**叫**”“**让**”の使役マーカーとしての意味で説明しようとしても、前述の二つ目の解釈に当てはまるのみである。よって、複数の解釈ができる例文を一つの解釈のみの意味・用法の例としてあげるのは適切ではない。また、各項目の説明としてあげられたことばについて、複数意味・用法がある場合、どの意味・用法に当たるのか、明白に説明する必要がある。

張・張・鄧（2001）では、介詞としての“**给**”の意味・用法について考察したが、その他の品詞については考察していないため、全体像が捉えにくい。本研究では、先行研究などを踏まえながら、介詞も含め、その他の品詞についても考察し、成都方言における“**给**”構文について、その意味・用法の全体像を明らかにしたい。

４．本研究の理論的枠組み及び研究方法

中国語の介詞といえば、よく英語の「前置詞」と似ていると言われている（王・一木・苞山2004など）が、劉丹青（中国語版2017、日本語版2022：136、137）[8]は「前置詞（preposition）のみならず後置詞（postposition）も介詞（ad-position）に属す」、「中国語が前置詞と後置詞の並存する言語である」と主張した。ただし、中国語の前置詞と後置詞の由来が異なり、前置詞はすべて動詞に由来し、後置詞の多くは方位名詞に由来したが非方位後置詞も存在するとも指摘した。これまでの先行研究を見る限り、介詞としての“**给**”は「授与」を表す動詞から文法化したもので、前置詞と分類されている。一方、中国語の介詞は虚詞[9]に属するため、単独で使うことができず、名詞（句）（ときには動詞句や形容詞）と組み合わせ、介詞フレーズを構成する。文中で連用修飾語として、場所、時間、原因、対象などを表す。つまり、語順は動詞の前に置かれることとなる[10]。

では、動詞の後ろに付く“**给**”は後置詞だろうか。Ⅱ.1で述べたように、さまざまな議論が行われていた。その中に、“V＋**给**”における“**给**”は後置の介詞と見なす先行研究がある。鍾（1959）では、動詞の後ろに付く“**给**”は動作行為の受け手を提示する。つまり、動詞を名詞や代名詞に導く働きを果たす。そのため、“**给**”は後置の介詞（前置詞）になると述べている。例えば“**张三送给李四一本书**「張三さんは李四さんに本を一冊送ってあげる」”の場合、“**给**”は“**送**”の受け手である李四さんを提示することとなる。これについて、盧涛（1993：82）でも「“**送**”自体が受け手表示の機能を持つが、“**给**”の付加によって、“**送**”の受け手を説明する働きがある」と主張している。前置詞としての“**给**”は先行研究（呂1992、劉・潘・故1996など）では、「物や伝達を受け取る者」を導くや「物や事柄の受け取り手」を引き出すと指摘されている。そのため、動詞の前に置くか後ろに付くか、位置は異なるものの、名詞（句）の前に使われて、統語的働きは同じであることがわかる。つまり、動詞の後ろに付く“**给**”も動詞の前に使う“**给**”と同じように介詞と見なすことが

できる。これは成都方言においても同じことが言える。

一方、成都方言においては、「授与」の意味を含まない動詞でも後ろに“给”が使える。その場合、“V＋给＋N1”の使い方はなく、VP をつける必要がある（張・張・鄧 2001:323）。

（2-1）**魔术　　咋个　　耍?**
マジック　どのように　する
你　　耍　　给　　我　看。
あなた　する　～に　私　見る
（マジックはどうやってやるの？やって私に見せて。）
（張・張・鄧 2001）

（2-2）**我　买　　给　　你　　穿。**
私　買う　～に　あなた　着る
（私が買ってあげて、着させる。）
（張・張・鄧 2001）

（2-1）（2-2）の文は兼語[11]構造となっている。（2-1）の“我”（私）は文前半「あなたがマジックをする」ときの見せる対象であり、文後半「見る」という動作をする動作主である。（2-2）の“你”は文前半「私が買う」ときのあげる対象であり、文後半「着る」動作をする動作主である。そのため、（2-1）の“我”と（2-2）の“你”は兼語となる。“给”については、（2-1）ではマジックを見せる対象を提示し、（2-2）では受領者を示しているため、二文とも“给”は動詞が表す動作・行為の与える対象を示すことがわかる。これは介詞の定義「種々の格関係をはじめとする動作行為に関連する名詞句（ときには動詞句または形容詞句）と述語動詞との意味的関係を示す語」（『中国語学辞典』2022:370）と一致している。よって、成都方言における動詞の後ろに付く“给”は介詞と見なす。なお、先行研究の「補語」としての見方について、張（1980：80）は、「一部の介詞を名詞や他の語の前に置いて構成されたことばは介詞構造と呼ぶ。このような介詞構造が動詞や形容詞の後ろに続く場合、介詞構造は補語となる」と述べた。介詞構造が補語となるため、“给”だけを見る場合、介詞である。本研究では、“给”の問題を中心とするため、補語に関する議論は今後の機会に譲る。

成都方言における“给”の品詞性について、先行研究ではすでに動詞、介詞、連詞の三種類を示したが、品詞ごとに具体的にどのような意味・用法があるかについては言及していない。また、（呂 1992:143）では、普通話（共通語）において口語の場合、“给”は助詞としての意味・用法もあるという。例えば、能動文に用いる“**他把衣服给晾干了**「彼は服を陰干しをした」”や“**我给洗，你给烫，咱俩一起干**「ぼくが洗うから、君がアイロンをかけてくれ、一緒にかたづけようよ」”、受身文に用いる“**房间都让我们给收拾好了**「部屋は私たちの手ですっかりかたづけられた」”や“**杯子我给打碎了一个**「コップを 1 個割ってしまった」”などである。しかし、張・張・鄧（2001:322）でも指摘したように、成都方言の“给”の後ろに必ず関与者を表すことばが必要なため、普通話（共通語）のように“给”を直接に VP の前に使うことができない。つまり、“给”の後ろに関与者を表すことばを付ける、または他の表現を使う必要がある。成都方言においては、能動文の場合、前述の例文は“**他把衣服晾干了／他把衣服给你晾干了**（彼は服を陰干しをした）”や“**我来洗，你来烫，我们两个一起弄**（ぼくが洗うから、君がアイロンをかけてくれ、一緒にかたづけようよ）”になる。受動文の場合、成都方言に“**着**”、“**拿给**”といった受動を表す介詞があるため、前述の例文は“**房间拿给我们收拾好了**（部屋は私たちの手ですっかりかたづけられた）”や“**杯子着我打烂了一个**（コップを 1 個割ってしまった）”になる。したがって、成都方言の“给”には普通話（共通語）のような助詞としての意味･用法がないと言える。よって、本研究では、成都方言における“给”について、動詞・介詞・連詞の三種類にわけて、それぞれの具体的な意味・用法を考察する。なお、“**给给**”については「動詞＋介詞」の視点から分析する。

研究方法については、品詞ごとに意味・用法を整理し具体例をあげながら分析を行う。その具体例は先行研究のほか、主に『民国四川話英語教科書』（1917）、『两代滄桑』（2015）、『中国語言文化典藏　成都』（2022）より抽出したものである。作例も少しながら使用したが、その成立・不成立の判定を含め、例文の意味・用法についての判断は、インフォーマント[12]として成都方言のネイ

ティブスピーカーにご協力いただいた。

『民国四川話英語教科書』（1917）は、百年も前に出版された方言の教科書“Chinese Lessons for First Year Student in West China”の影印本である。書名には「四川話」が書かれているが、作者が英文で書いた序文において、成都方言に従って発音を表記したと書いている。テキストには当時、成都の人々が日常よく使う比較的簡単なフレーズを多く取り入れられ、中英対訳で示している。この書籍から例文を抽出する際、成都方言のネイティブスピーカーに確認し、判定してもらった上で使用した。

『两代滄桑』（2015）は、約百三十五万字のノンフィクション長編小説である。これまでの方言小説と違い、徹底的に方言で書かれたものである。より多くの読者にわかってもらうため、ほとんどの方言小説は、文中の人物の会話は方言を使用し、その他の文章については、昔は白話[13]、現在は普通話（共通語）で書かれている。しかし、『两代滄桑』の場合、著者自身は成都方言のネイティブスピーカーであるにもかかわらず、文献調査や語句等の検証、何十人もの成都生まれ成都育ちの年寄りへのインタビューを通して、全文は忠実に成都方言・四川方言で書かれている[14]。そのため、抽出した例文は本研究での分析対象としてふさわしいと判断した。なお、『两代滄桑』より抽出した例文は成都方言なのか、それともその上位範疇の四川方言なのかについて、成都方言のネイティブスピーカーに確認し、判定してもらった。

『中国語言文化典藏　成都』（2022）は、成都方言および成都の民俗文化について調査した内容を収録したものである。住宅建築、生活用具、衣服、食生活、農業と工業、日常活動、冠婚葬祭、祭り、伝統芸能関係の 9 章に分かれて、成都方言の語句の解釈や大量の写真、とりわけ本の最後に成都の俗語やことわざが載っている。この書籍から抽出した成語方言の語句は本研究での分析対象としてもふさわしい。

なお、民国時代出版された『民国四川話英語教科書』（1917）と 21 世紀出版された『两代滄桑』（2015）を方言資料として用いるのは、成都方言における“给”の意味・用法に変化があるかどうかを考察するためである。

Ⅲ．成都方言における“给”構文について

成都方言における“给”構文について、品詞別にわけて、動詞、介詞、連詞の順で考察・分析する。

１．動詞としての意味・用法

成都方言における“给”は動詞として用いられる場合、普通話（共通語）と同じく「与える」という意味を表す授与動詞となる。“给”は三項動詞であり、基本的に「N1＋给＋N2＋N3」という構文になる。N1 は文の主語であり、N2 は間接目的語、N3 は直接目的語である。意味的に見れば、N1 は動作主、N2 は受領者、N3 は対象物になる。

（3-1）**我　给　　她　　一本　书。**
私　あげる　彼女　一冊　本
（私は彼女に本を一冊あげます。）
（『成都方言詞典』1998、Ⅱ.2 ①の再掲示）

（3-2）**外婆　　给　　我　一块　糕。**
おばあさん　くれる　私　一つ　餅
（おばあさんは私に餅を一つくれる。）
（『中国語言文化典藏　成都』2022）

（3-3）**我　给　　了　　他　二十五块。**
私　あげる　～た　彼　二十五元
（私は彼に二十五元をあげました。）
（『民国四川話民英語教科書』1917）

（3-1）（3-2）（3-3）を見れば、すべて動作主が受領者に対象物を与える文になる。“给”は授与の意味を表すが、日本語の授受表現に翻訳する場合、動作主と受領者の関係などによって「あげる / やる」「もらう / いただく」「くれる / くださる」を使い分ける。また、（3-3）のように、動作の実現・完了を表すアスペクト助詞“了”をともなうこともできる。その際、“了”は動詞“给”の後ろに用いる。

（3-1）（3-2）（3-3）の場合、直接目的語で対象物を表す名詞はすべて具体的なもの、つまり「本」「餅」「お金」を指しているが、場合によってその名詞は実物以外、抽象的なものもある。

(3-4) **我　给　　你　　两　坨子。**
私　あげる　あなた　二　こぶし
（あなたにパンチを二発食らわせる。）

(3-5) **给　　脸　不要　　脸**
あげる　顔　要らない　顔
（人が引き立てようとしているのに自分はそれに気がつかない⇨身の程知らずだ）
（『成都話方言詞典』1987）

（3-4）では、直接目的語で対象物を表す名詞は“**坨子**”であり、成都方言において「こぶし」を意味する。しかしこの文においては、こぶしそのものではなく、「こぶしを使って、パンチする」という表現となる。つまり、“**给你两坨子**”は「あなたにこぶしを二つあげる」の意味ではなく、「あなたにパンチを二発食らわせる」という意味である。同様に、（3-5）では、“**脸**”も「顔」そのものを意味するのではなく、抽象的に「顔を立ててあげる」という行為を表している。盧（1993:81）では、「NP1＋**给**＋NP2＋NP3」においてNP3にはまず具体的なもの（Entity）がある。そういう実物以外に、抽象的なものもあると指摘した。つまり、普通話（共通語）においても同じ用法がある。

一方、普通話（共通語）では、N3の後ろにさらに動詞を使うことができる。例えば、“**给我一壶开水沏茶**「お茶を入れるのでやかんに1杯お湯をください」”や“**给我一杯水喝**「私に水を1杯飲ませてくれ」”（呂（1992:141））などが挙げられる。しかし、成都方言では同じ用法が見られなかった。前述の例文を表すには、“**拿／给一壶开水给我泡茶**”、“**拿／给杯水给我喝**”などの表現になる。なお、文頭にある“**给**”は動詞で、後ろの“**给**”は介詞となる。

２．介詞としての意味・用法

普通話（共通語）では、“**给**”は介詞として用いる場合、その他の品詞として用いる場合より多くの意味･用法を持っている。成都方言でも“**给**”が介詞として用いる場合は最も意味･用法が多い。以下具体的に考察する。

⑴　N1＋给＋N2＋V＋N3

「N1＋**给**＋N2＋V＋N3」の構文においては、N1動作主、N2は受領者、N3は対象物を表す。構文的にはN3はVの目的語であり、動作・行為の直接に関わる対象となるが、動作主と受領者の間に授与の対象物でもある。“**给**”を動詞として用いる文との違いは、直接の授与だけでなく、何らかの動作をともなっていることである。

(3-6) **给　我　来　　杯　茶。**
～に　私　くれる　杯　お茶
（私にお茶を（1杯）ください。）
（張・張・鄧 2001）

(3-7) **孙夫人　在　　给**
孫夫人　～しているところ　～に
团长的少爷、小姐　发　　红包。
団長の息子、娘　　配る　年玉
（孫夫人は団長の息子さんや娘さんにお年玉を配っている。）
（『两代滄桑』2015）

（3-6）には動作主を表すN1が書かれていないが、聞き手に対する話のため、動作主は聞き手であることが推測できる。“**来**”は聞き手自身の移動だけではなく、N3のお茶を持ちながらの移動となる。つまり、“**来**”は“**拿过来／端过来**（持ってきてくれる）”の意味を含む。“**给**”はお茶を受け取る対象である私（N2）を導入する。（3-7）も同様に、“**给**”は孫夫人（N1）が配ったお年玉（N3）の受け取り対象である団長の息子さんや娘さん（N2）を導入する。よって、「N1＋**给**＋N2＋V＋N3」の文において、“**给**”は物や事柄の受領者を導く役割を果たしている。また、呂（1992）や劉･潘・故（1996）から普通話（共通語）でも同じ意味・用法があることがわかる。

⑵　N1＋给＋N2＋VP

「N1＋**给**＋N2＋VP」の構文において、N1は動作主、N2は対象者、VPは動作主の動作・行為を表す。「N1＋**给**＋N2＋V＋N3」の構文と比べると、VP部分の動詞Vの目的語は必ず使うとは限らない。また、目的語がある場合、N2が最終的に受け取るものではない。N2はN1の動作・行為の対象者である。

(3-8) **王长兴,　　我　给**
王長興さん　私　～に
你　　说　　个　　话。
あなた　話す　量詞　話
(王長興さん、私はあなたにお話をする。)
(『民国四川話英語教科書』1917)

(3-9) **周大哥　　又是　扯起　　牛肋巴条子,**
周の長男　また　振り上げる　牛の肋骨
给　　周老幺　　打　　起去。
～に　周の末っ子　打つ　補語
(周の長男はまた、牛の肋骨を振り上げて、周の末っ子に打ちかかる。)
(『两代滄桑』2015)

(3-8) では、あなた (N2) は私 (N1) の話す対象となり、"**给**" はその対象を表す。この場合、"**给**" は "**对**" や "**跟**" の意味を持つ。(3-9) では、"**给**" の前に動作主が書いていないが、前文から周の長男が一連の動作を行う者であることがわかる。そのため、後文に省略された N1 動作主は「周の長男」となる。そして、牛の肋骨を使って周の末っ子 (N2) に打ちかかろうとする。"**给**" は周の長男が打ちかかる対象を表す。この場合、"**给**" は "**向**" の意味を持つ。よって、「N1＋**给**＋N2＋VP」の構文において、"**给**" の意味・用法の一つとして、動作・行為の対象を表すことができる。その際、"**对**" "**跟**" "**向**" と同じ、「～に対して」「～に向かって」などの意味を持つ。これについて普通話 (共通語) でも同じ意味・用法が見られる (呂 1992、劉・潘・故 1996 など)。

一方、普通話 (共通語) では、例えば "**给我**" のように介詞 "**给**" の直後が自分自身の場合、命令文に用いることができる。その際、命令の口調を強め、話し手の意志を示すこととなる (呂 1992:142)。例えば、"**你给我走开!**「あっちへ行け」" や "**你给我小心点儿!**「おい、気をつけろよ」" などが挙げられる。成都方言にもこのような強制や命令を表す "**给我**＋VP" の用法がある。例えば、"**给我赔起!** (弁償しろ)" "**给我爬开!** (どけ)" などである。

普通話 (共通語) においては、"**给**" のもう一つの用法は「利益もしくは損害を受ける間接関与者を導入することである」(朱 1995)。つまり、"**给**" は動作・行為による受益者または被害者を導くことができる。成都方言においても同じことが言えるが、普通話 (共通語) と全部が同様なわけではない。とりわけ動詞・行為による被害者を導く際の構文は異なっている。

(3-10) **给　　病人　检查。**
～に　患者　検査する
(患者に検査をする。)
(張・張・鄧 2001)

(3-11) **回回　都　　有　　错,　　都**
毎回　みな　ある　間違い　みな
请　　先生　给　　我　改　　一下。
～てください　先生　～に　私　直す　少し
(毎回間違う。すべて先生に直していただけないでしょうか。)
(『民国四川話英語教科書』1917)

(3-12) **把　　药　给　　病人**
～を　薬　～に　患者
吃　　拐　　了。
食べる　間違う　～た
(薬を患者に間違って飲ませた。)
(張・張・鄧 2001)

(3-13) **你　　把　　神光　　给**
あなた　～を　神の光　～に
他们　褪　　光　　了。
彼ら　とる　補語　～た
(あなたは彼らの神の光を全部消してやった。)
(『两代滄桑』2015)

(3-14) **衣服　着　　风　　给**
服　～れる / られる　風　～に
我　刮　　起跑　了。
私　吹く　補語　～た
(服が風に吹き飛ばされてしまった。)
(張・張・鄧 2001)

(3-10) は動作主が省略されているが、文脈から医者などが推測できる。検査するのは医者、患

者は検査の参加者となる。医者などは患者のために検査を実施し、それを通して病気または病因を調べ、さらに治療法を見つけ出す。その一連の過程において患者は受益者である。(3-11) では、本来なら間違いを直すのは「私」であるが、先生に「私」の代わりにやってもらうことを頼んだ。その結果、間違いを訂正するのは先生になり、そのことによって正しい答えが得られ、「私」は利益を得て受益者になる。以上のことから、“**给**”は動作・行為による受益者を導く。また、「～ために」「～に代わって」などの意味も含むため、“**为**”“**替**”に相当する。これは普通話（共通語）と同じである。

(3-12)（3-13）(3-14) では、“**给**”は動作・行為による受益者ではなく、被害者を導く。(3-12) は動作主が省略されているが、(3-10) と同じように医者となるだろう。医者が薬を間違って出したせいで、患者はそれを飲んで具合が悪くなる、ないしは死に至る可能性もあるため、患者は被害者となる。(3-13) は比喩の文である。小説の内容を踏まえて言えば、「彼ら」は人々を騙し、神のようなすごい存在となっていたが、「あなた」(小説の中では周の末っ子となる) はその嘘を見事に見破り、真実を人々に教えた。本来なら人々にとっては「あなた」はよいことをしたが、「彼ら」の立場からすれば、「あなた」のしたことで「彼ら」の利益を損害したため、被害者となる。(3-14) では、「私」は服が風に飛ばされてなくなることによって被害を受けるため、被害者となる。普通話（共通語）の場合、“**给**”が被害者を導くときは前述の受益者を導くと同じ構文となるが、成都方言の場合は違う。成都方言では、能動文の場合、“**把**”を使って目的語を取り立てて、その後に“**给**”と導く被害者を示し、最後にどのような働き（動作･行為）またその結果を説明する。つまり、「N1＋**把**＋N3＋**给**＋N2＋VP」の構文となる。N1 は動作主、N2 は被害者、N3 は VP にある V の目的語であるが、V は裸動詞ではなく、必ず補語やその他の要素が必要である。受動文の場合、“**着**”を使って行為者を取り立てて、その後に“**给**”と導く被害者を示し、最後にどのような働き（動作･行為）またその結果を説明する。つまり、「N3＋**着**＋N1＋**给**＋N2＋VP」の構文となる。N1 は動作･行為者、N3 は受動者、N2 は動作・行為による被害者、VP は動作・行為及びその結果を表す。

普通話（共通語）には、動詞の受動態を表すための受動マーカーがある。一般的には介詞“**被**”“**叫**”“**让**”を用いる。介詞“**给**”も「受動者主語文に動作者を導入する」ことができるため、「その働きは“**叫**”“**让**”“**被**”と似ている」（朱 1995:241）。成都方言においては、受動態を表す際は主に介詞の“**着**”と“**拿给**”を用いるが、少ないながら“**给**”も使える。

(3-14) **虎少爷　　给**
虎の坊ちゃん　～れる / られる
水　冲　　起走　了。
水　流す　補語　～た
（虎の坊ちゃんは水に流されてしまった。）
（張・張・鄧 2001（出典：『憩園』1944））

(3-15) **豆芽　　给**
もやし　～れる / られる
你　　炒　　咸　　了。
あなた　炒める　塩辛い　～た
（もやしはあなたによって塩辛く炒められてしまった。）
（張・張・鄧 2001）

(3-14) では、「虎の坊ちゃん」は受動者、「水」は動作者となり、“**给**”は動作者を導入する。普通話（共通語）の“**被**”に相当する。(3-15) では、「もやし」は炒める対象であるが、炒める動作をする者について二通りの解釈ができる。一つ目は、炒める動作をするのは「あなた」である。この場合、「もやしはあなたによって塩辛く炒められてしまった」という意味になる。“**给**”は動作者を導入し、普通話（共通語）の“**被**”に相当する。二つ目は、炒める動作をする者は「あなた」ではなく、話し手である。この場合、「あなたに炒めてあげたもやしは（私が）塩辛く炒めてしまった」という意味を表し、“**给**”は被害者を導くこととなる。一方、『民国四川話英語教科書』(1917)、『两代滄桑』(2015)、『中国語言文化典蔵　成都』(2022) では、受動文に用いる“**给**”の例文が見つからなかった。三者ともに“**着**”や“**拿给**”が使われている。つまり、“**给**”は受動を表す介詞として用いられることが少ない、または限られた文脈にし

か使わないことが推測できる。その理由の一つとして、張・張・鄧（2001:321）は、一つの介詞が持つ意味・用法が多すぎると、誤解や誤用が生じやすくなるからであると指摘している。つまり、介詞としての“**给**”は授与を表す動詞より文法化され、主に受領者、受益者・被害者などを導く役割を果たすため、受動表現よりそちらの意味・用法が優先されやすい。また、成都方言に“**着**”、“**拿给**”といった受動を表す介詞があるため、幾つかの意味・用法を持つ“**给**”を使用するより、“**着**”や“**拿给**”を受動文に使う方がわかりやすい。

一方、『成都方言詞典』（1998）であげられた“**她买了一节料子给婆婆做衣服**”の例文について、前の説明では“**叫**”“**让**”が書かれているため、受動態か使役態を表すことと推測する。受動態の場合、“**＊她买了一节料子被婆婆做衣服**”は非文となる。使役態の場合、“**＊她买了一节料子使婆婆做衣服**”は非文であるが、“**她买了一节料子叫／让婆婆做衣服**”は「彼女は布を一片買って、おばあさんに服を作ってもらう」と意味の通る文になる。しかし、張・張・鄧（2001）では使役の用法が見当たらない。今回の調査では“**给**”が使役文に用いる例も見つからなかった。成都方言のネイティブスピーカーに確認したところ、使役を表す場合、一般的に“**她买了一节料子拿给婆婆做衣服**”または“**她买了一节料子喊婆婆给她做衣服**”を言う。前者は成都方言の使役マーカーである介詞の“**拿给**”を使っている。後者はより口語で、普通話（共通語）の“**叫**”“**让**”の代わりに“**喊**”を使い、さらに“**给**”を使って物や事柄の受領者（彼女）を導く。つまり、成都方言では“**给**”より介詞“**拿给**”を使役マーカーとして使役文に用いる。前述の受動を表す場合と同じように、“**给**”は使役を表す介詞として用いられることが少ない、または限られた文脈にしか使わないことが推測できる。また、『成都方言詞典』（1998）以外用例が見つからないことから、よりわかりやすい表現が多く使われるようになった可能性がある。なお、普通話（共通語）において、“**给**”は介詞ではなく、使役動詞として用いることができる。例えば、“**你那本书给看不给看**「君のその本、見せてくれる？」”、“**给他多休息几天**「彼を何日か余計に休ませる」”呂（1992:142）では、「許す、…させる」の意味、用法は“**叫・让**”に近いと示している。しかし、成都方言ではこのような意味・用法がない。

⑶ N1＋V＋给＋N2＋N3

成都方言においては、“**给**”は動詞の後ろにも用いられる。Ⅱ.4で述べたように、本研究ではこの場合の“**给**”を介詞と見なす。「N1＋V＋**给**＋N2＋N3」の構文では、N1は主語で動作主、N2は間接目的語で受領者、N3は直接目的語で対象物となり、“**给**”は事物の受領者を導く。Vは「授与」の意味を持つ動詞である。

(3-15) **她婆婆　　生前　送　　给**
彼女のおばあさん　生前　送る　～に
她　　一副　绣花绷子。
彼女　一つ　刺繍枠
（おばあさんは生前、彼女に刺繍枠を一つあげた。）
（『两代滄桑』2015）

(3-16) **信本　　连　　信**
チットブック　～とともに　手紙
交　　给　　看门的。
渡す　～に　管理人
（チットブックは手紙とともに管理人に渡して。）
（『民国四川話英語教科書』1917）

（3-15）では、おばあさん（N1）は動作主で、刺繍枠（N3）は贈り物で、彼女（N2）は贈り物の受領者となる。(3-16）では、動作主が省略されているが、聞き手に対する話から聞き手が動作主になることが推測できる。チットブックと手紙は渡す物で、管理人は受領者となる。(3-15)(3-16)においては、“**给**”は事物の受領者を引き出す役割を果たしている。張・張・鄧（2001:323）では、Vの意味によって、“**给**”が省略できる場合とできない場合について議論し、Vは「授与」の意味を含める場合、例えば“**送**”の後ろの“**给**”は省略できるが、「授与」と「取得」両方の意味を持つVの場合、「取得」を表す場合は“**给**”を使わなくてもよい（例：**借你一支笔**（あなたから筆を一本借りる））が、「授与」を表す場合は必ず“**给**”を使う（例：**借给你一支笔**（あなたに筆を一本貸してあげる））と指摘した。前述のように、「N1

＋V＋给＋N2＋N3」の文においては、“给”の働きは事物の受領者を引き出すことにあり、その後ろのN2は受領者を表す。そのため、対象物の移動はN1からN2へ、その逆はできない。これは張・張・鄧（2001:323）が指摘した「Vが授与を表す場合は必ず“给”を使う」と一致している。

一方、普通話（共通語）においても授与の意味を持つ動詞の後ろに“给”が使えるが、動詞が“给”の場合、朱（1979・1980）では普通話（共通語）には“给给N”の用法がないと指摘した。しかし、成都方言には“给给N”の使い方がある。

(3-17) **这是　他　的　东西，**
これは　彼　の　もの
你　给　给　他　嘛！
あなた　あげる　～に　彼　ね
（これは彼の物なので、渡してあげてね）
（張・張・鄧 2001）

(3-18) **钱　给　给　你　了，**
お金　あげる　～に　あなた　～た
你　想　咋花咋花。
あなた　～たい　どのように使う
（お金はあなたにあげたから、好きなように使って。）

（3-17）の“给给他”、（3-18）の“给给你”について、前の“给”は動詞で、授与の意味を持つ。後ろの“给”は介詞で、物や事柄の受領者を導く。その後の“他”“你”は受領者となる。

(4) N1＋V＋给＋N2＋VP

「N1＋V＋给＋N2＋VP」の構文は兼語構造であり、N1は文前半の主語で、Vが表す動作・行為の動作主である。N2は文前半の対象者であり、文後半となれば主語であり、VPが表す動作・行為の動作主になる。また、Vは特に授与の意味を持つ動詞に限らない。

(3-19) **锅巴饭　专门　留**
おこげごはん　わざわざ　残す
给　我　吃。
～に　私　食べる
（おこげご飯はわざわざ私が食べるように残してくれる。）
（『两代滄桑』2015）

(3-20) **我　买　给　你　穿。**
私　買う　～に　あなた　着る
（私が買ってあげて、着させる。）
（張・張・鄧 2001）、（2-2）再掲示）

（3-19）（3-20）の文は兼語構造となっている。（3-19）の“我”は文前半「おこげご飯を残される」対象であり、文後半「食べる」という動作の動作主でもある。（3-20）の“你”は文前半「私が買う」ときの服をあげる対象である、文後半「着る」動作をする動作主である。よって、（3-19）の“我”と（3-20）の“你”は兼語となる。“给”については、（3-19）ではご飯をあげる対象を提示し、（3-20）では受領者を示しているため、二文とも“给”は動詞が表す動作・行為の与える対象を示すことがわかる。

普通話（共通語）において、「“给”＋名詞」が受領対象を表す時、述語動詞はすべて“给予”（与える）の意味を表すもので、「“给”＋名詞」はふつう動詞の後に現れる（劉・潘・故 1996:530）が、述語動詞が“制作”（造る）や“取得”（得る）の意味を表す時は、「“给”＋名詞」はふつう動詞の前に現れる（劉・潘・故 1996:531）。しかし、成都方言においては、「授与」の意味を含まない動詞でも後ろに“给”が使えるが、普通話（共通語）のように“V＋给＋N”の使い方ではなく、「N1＋V＋给＋N2＋VP」のようにVPをつける必要がある。

3．連詞としての意味・用法

成都方言における“给”は連詞として用いる場合、名詞と名詞を連結し、「と」の意味を表す。これは連詞である“和”、“跟”と同じ意味・用法である。

(3-21) **你　给　他　一组。**
あなた　と　彼　一グループ
（あなたと彼と同じグループになる。）
（『成都方言詞典』1998、（1-3）の再掲示）

(3-22) **牛　绐　牛儿子，牵　　回来　了。**
牛　と　仔牛　　引く　補語　～た
（牛と子牛を連れて帰った。）
（『民国四川話英語教科書』1917）

(3-23) **把　　白的　绐　有颜色的　衣裳　分开。**
～を　白い　と　色がある　服　　わける
（白い服と色がある服と分けて。）
（『民国四川話英語教科書』1917）

上記の（3-21）（3-22）（3-23）で見られるように、“**给**”は連詞として、「と」の意味を表す。普通話（共通語）の“**和**”、“**跟**”と同じ意味･用法であるが、普通話（共通語）では、“**给**”は連詞として用いられない。これは成都方言独自の意味・用法となる。管見では、方言辞書や先行研究に連詞として用いる“**给**”について詳しく分析していなかったが、『民国四川話英語教科書』（1917:107）において、単語の英文説明に以下のように書かれている。

給GE[1], and. If you are in need of a word for ‘and’ -and most of us foreigners are- here were have the best word in Chinese spoken language. It has also the common meanings ‘to give’, ‘to pay’, but is constantly used as ‘and’.（**给** GE[1]、と。私たち外国人のほとんどがそうだが、もしあなたが「と」という単語を必要としているなら、中国語の話しことばの中で最も良い単語がここにある。この単語には「与える」、「支払う」という一般的な意味もあるが、「と」としてもよく使われる。）

つまり、連詞の“**给**”は話しことばであり、民国時代からすでに日常会話によく使われている。ところが、『两代滄桑』（2015）では用例が見つからず、「と」の意味を表す際に“**跟**”が使用されている。その理由として幾つか推測できる。まずは『民国四川話英語教科書』（1917）でも『成都方言詞典』（1998）でも出版社されてから時間が経ったため、人々の言語使用状況も変わるだろう。また、成都方言“**给**”は［ke[1]］と［kən[1]］、二つの発音がある。動詞として用いる際は［ke[1]］としか読めないが、その他は両方とも読める。「と」の意味を表し、［kən[1]］と読む場合、“**跟**”という漢字が連想されやすく、使用される可能性が高い。さらに、普通話（共通語）の普及につれて、方言にしかない意味・用法は徐々に少なくなり、普通話（共通語）に近い意味・用法に変わった可能性もある。

Ⅳ．おわりに

本研究では、成都方言における“**给**”構文について、品詞別にわけ、普通話（共通語）との対照も兼ねながら考察・分析をした。まず、品詞について、成都方言は動詞、介詞、連詞として用いることができるが、普通話（共通語）にある助詞の用法がない。また、連詞の用法は普通話（共通語）にない成都方言独自の用法となる。次に、“**给**”の具体的な意味・用法について、以下のことが明らかになった。

“**给**”は動詞として用いる場合、普通話（共通語）と同じく「与える」という意味を表す授与動詞となる。“**给**”は三項動詞であり、基本的に「N1＋**给**＋N2＋N3」という構文になる。N1 は文の主語であり、N2 は間接目的語、N3 は直接目的語である。意味的に見れば、N1 は動作主、N2 は受領者、N3 は対象物になる。動作の実現・完了を表すアスペクト助詞“**了**”をともなうことができる。その際、“**了**”は動詞“**给**”の後ろに用いる。また、対象物である N3 は具体的なもののほか、実物以外の抽象的なものを指すこともできる。一方、普通話（共通語）では、N3 の後ろにさらに動詞を使うことができるが、成都方言では同じ用法が見られなかった。

成都方言では、“**给**”が介詞として用いる場合は最も意味・用法が多い。

①物や事柄の受領者を導く。主に「N1＋**给**＋N2＋V＋N3」の構文に用いる。N1 動作主、N2 は受領者、N3 は対象物を表す。構文的には N3 は V の目的語であり、動作・行為の直接に関わる対象となるが、動作主と受領者の間に授与の対象物でもある。“**给**”が動詞として用いる文との違いは、直接の授与だけでなく、何らかの動作をともなっていることである。これは普通話（共通語）でも同じ意味・用法が見られる。

②動作・行為の対象を表す。“**对**”“**跟**”“**向**”と同じ、「～に対して」「～に向かって」などの意味を持つ。主に「N1＋**给**＋N2＋VP」の構文になる。

N1 は動作主、N2 は対象者、VP は動作主の動作・行為を表す。①の「N1＋给＋N2＋V＋N3」の構文と比べると、VP 部分の動詞 V の目的語は必ず使うとは限らない。また、目的語がある場合、N2 が最終的に受け取るものではない。これも普通話（共通語）でも同じ意味・用法が見られる。一方、普通話（共通語）において、N2 は自分自身の場合、例えば“给我”などは命令文に用いることができる。成都方言にも強制や命令を表す“给我＋VP”の用法がある。

③動作・行為による受益者または被害者を導く。受益者を導く場合、普通話（共通語）と同じく、“给”は「～ために」「～に代わって」などの意味も含むため、“为”“替”に相当する。一方、被害者を導く場合、普通話（共通語）と異なる。成都方言では、能動文の場合、“把”を使って目的語を取り立てて、その後に“给”と導く被害者を示し、最後にどのような働き（動作・行為）またその結果を説明する。つまり、「N1＋把＋N3＋给＋N2＋VP」の構文となる。N1 は動作主、N2 は被害者、N3 は VP にある V の目的語であるが、V は裸動詞ではなく、必ず補語やその他の要素が必要である。受動文の場合、“着”を使って行為者を取り立てて、その後に“给”と導く被害者を示し、最後にどのような働き（動作・行為）またその結果を説明する。つまり、「N3＋着＋N1＋给＋N2＋VP」の構文となる。N1 は動作・行為者、N3 は受動者、N2 は動作・行為による被害者、VP は動作・行為及びその結果を表す。

④受動文に用いて、動作・行為者を導く。受動マーカーである介詞の“被”“叫”“让”に相当する。ただし、成都方言においては、受動態を表す際は“给”より主に受動を表す介詞の“着”と“拿给”を用いる。一方、『成都方言詞典』（1998）が示した“给”の使役態を表す用法は、文献資料に見当たらなく、成都方言のネイティブスピーカーによれば、一般的に介詞の“拿给”が使役マーカーとして使役文に用いるという。なお、普通話（共通語）においては、“给”は介詞ではなく、使役動詞として用いられる。しかし、成都方言においては、使役動詞としての意味・用法がない。

⑤動詞の後ろに用いる。「N1＋V＋给＋N2＋N3」の構文では、N1 は主語で動作主、N2 は間接目的語で受領者、N3 は直接目的語で対象物となり、“给”は事物の受領者を導く。V は「授与」の意味を持つ動詞である。一方、普通話（共通語）においても授与の意味を持つ動詞の後ろに“给”が使えるが、動詞は“给”の場合、“给给 N”の用法がない（朱 1979・1980）。しかし、成都方言には“给给 N”の使い方がある。

⑥動詞の後ろに用いる。「N1＋V＋给＋N2＋VP」の構文は兼語構造であり、N1 は文前半の主語で、V が表す動作・行為の動作主である。N2 は文前半の対象者であり、文後半となれば主語であり、VP が表す動作・行為の動作主になる。普通話（共通語）において、“给＋N”が受領対象を表す時、述語動詞はすべて「与える」の意味を表すもので、“给＋N”は動詞の後に使う；述語動詞が「造る」や「得る」の意味を表す時は、“给＋N”は動詞の前に現れる（劉・潘・故 1996:530、531）。しかし、成都方言においては、「授与」の意味を含まない動詞でも後ろに“给”が使えるが、普通話（共通話）のように“V＋给＋N”の使い方ではなく、「N1＋V＋给＋N2＋VP」のように VP をつける必要がある。

“给”は連詞として用いる場合、名詞と名詞を連結し、「と」の意味を表し、連詞である“和”、“跟”と同じ意味・用法である。これは普通話（共通語）にない、成都方言独自の用法となる。しかし、『两代滄桑』（2015）では用例が見つからず、「と」の意味を表す際に“跟”が使用されている。

以上のことをまとめてみれば、下記の表となる。

表　成都方言における“给”構文の意味・用法

動詞	「授与」の意味を表す。 基本的に「N1＋给＋N2＋N3」という構文に用いる。
介詞	物や事柄の受領者を導く。 主に「N1＋给＋N2＋V＋N3」の構文に用いる。
	動作・行為の対象を表す。“对”“跟”“向”と同じ、「～に対して」「～に向かって」などの意味を持つ。
	動作・行為による受益者または被害者を導く。 受益者を導く場合、普通話（共通語）と同じく、“给”は「～ために」「～に代わって」などの意味も含むため、“为”“替”に相当する。 被害者を導く場合、普通話（共通話）と異なる。
	受動文に用いて、動作・行為者を導く。受動マーカーである介詞の“被”“叫”“让”に相当する。ただし、成都方言においては、受動態を表す際は“给”より主に受動を表す介詞の“着”と“拿给”を用いる。
	動詞の後ろに用いる。“给”は事物の受領者を導く。 主に「N1＋V＋给＋N2＋N3」の構文に用いる。 成都方言に“给给 N”の使い方がある。
	動詞の後ろに用いる。 「N1＋V＋给＋N2＋VP」の構文は兼語構造なため、“给”は文前半の動詞 V が表す動作・行為の与える対象（N2）を示す。
連詞	名詞と名詞を連結し、「と」の意味を表し、連詞である“和”、“跟”と同じ意味・用法である。

今回は成都方言における“给”構文について考察し、普通話（共通語）との対照も兼ねて、その意味・用法の全体像を明らかにしたが、用いる例文の量は必ずしも十分とは言えない。今後はさらに用例を増やす必要がある。また、介詞として用いる“给”の受動文と使役文の使用実態や、連詞として用いる“给”の現状などについても考察したい。これらを今後の課題とする。

注

1　『中国語学辞典』（2022:370）では、「前置詞」の項目に「介詞」の定義が示されている。「種々の格関係をはじめとする動作行為に関連する名詞句（ときには動詞句や形容詞句）と述語動詞との意味的関係を示す語。」本研究では、「前置詞」ではなく、「介詞」という用語を用いる。

2　日本語訳については、筆者によるものは（　　）に入れてあり、元々日本語訳が付いているものは（　　）を使わない、または「　　」で示す。以下も同様。

3　連詞：「虚詞の一類であり、単語やフレーズ、分句をつなぐものである。」『現代中国語文法総覧』（1996：253）

4　『現在中国語文法総覧』（1996）：『実用現代漢語語法』（劉月華、潘文娯、故韡著、外語教学与研究出版社、1983 年）の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は劉・潘・故（1996）と記す。

5　『中国語文法用例辞典（現代漢語八百詞増訂本日本語版）』（1992）：『現代漢語八百詞』（呂叔湘主編、商務印書館、1980 年）の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は呂（1992）と記す。

6　『文法講義　朱德熙教授の中国語文法要説』（1995）：『語法講義』（朱德熙著、商務印書館、1982 年）の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は朱（1995）と記す。

7　朱（1995）では、「介詞」を「前置詞」と訳しているが、注 1 にも示したように、中国語の文法用語「介詞」を用いる。

8　『文法の調査と研究のためのハンドブック―中国域内言語の視点から―Ⅰ構文論』（2022）：『語法調査研究手冊（第二版）』（劉丹青著、上海教育出版社、2017 年）の日本語による全訳本。本研究は主に日本語版を参照したため、以下は劉（2022）と記す。

9　虚詞：「実詞のような実質的・具体的な意味を持たず、単独では文法成分になることができず、専ら文法的な意味や倫理関係を表す文法的な機能語ことを指す。」『中国語学辞典』（2022:123）

10　東京外国語大学言語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/contents/explanation/029.html（最終閲覧日 2023 年 7 月 20 日）。

11　兼語：動目フレーズの目的語であると同時に主述フレーズの主語でもあるという二つの役割を兼ね備えており、兼語と呼ばれる。（劉・潘・故 1996:602）

12　インフォーマントとして成都方言のネイティブスピーカーにご協力いただいた。20 代 2 名(男 1 名、女 1 名)、30 代 2 名（男 1 名、女 1 名）、40 代 2 名（男 1 名、女 1 名）、50 代 2 名（男 1 名、女 1 名）、60 代 2 名（男 1 名、女 1 名）の計 10 名、成都生まれ成都育ち、成都市外で半年以上の居住歴がなく、家庭内も成都方言を使用している。

13　白話：漢語文語の一種。唐宋以来、口語に基づいて形成されたもので、最初は通俗文学作品に用いられ、“五・四運動”後普遍的に使用され、現代漢語（普通話）の文語形式となった。（『現代漢語詞典（第七版）』商務印書館、pp.24：**汉语书面语的一种。它是唐宋以来在口语基础上形成的，起初主要用于通俗文学作品，到五四运动以后才在社会上普遍应用，成为现代汉语（普通话）的书面形式。**）

14　著者による『两代滄桑』の紹介、具体的な創作過程が書かれている。（「**《两代沧桑》之“序”：老人不讲古，后生会失谱」腾讯新闻** 2019.11.21　https://new.qq.com/omn/20191121/20191121A02ACX00.html（最終閲覧日 2023 年 7 月 20 日））。

参考文献

（1）日本語

泉敏弘（1986）「蘭州方言「**给**」構文考」『中国語学』233 号、113-119 頁。

王占華・一木達彦・苞山武義（2006）『中国語学概論』駿河台出版社。

木村英樹（2008）「北京語授与動詞“**给**”の文法化―＜授与＞と＜結果＞と＜使役＞の意味的連携」

『ヴォイスの対象研究―東アジア諸語からの視点』くろしお出版、93-107 頁。
佐々木勲人（2007）「東南方言における授与と受動」『南腔北調論集：中国文化の伝統と現代　山田敬三先生古稀記念論集』、989-1005 頁。
朱德熙（1982）『文法講義　朱德熙教授の中国語文法要説』杉村博文・木村英樹訳、白帝社。
杉村博文（1994）『中国語文法教室』大修館書店。
杉村博文（2007）「中国語授与構文のシンタクス」、『大阪外国語大学論集』、第 35 号、65-96 頁。
村松恵子（2013）「現代中国語における“给”―文法化からモダリティー化へ―」『名城論叢』第 14 巻第 1 号，43-67 頁。
日本中国語学会編（2022）『中国語学辞典』、岩波書店。
劉月華、潘文娯、故韡（1996）『現在中国語文法総覧』相原茂監訳、片山博美・守屋宏則・平井和之訳、くろしお出版。
劉丹青（2022）『文法の調査と研究のためのハンドブック―中国域内言語の視点から―Ⅰ構文論』杉村博文訳、日中言語文化出版社。
盧濤（1993）「『给』の機能語化について」『中国語学』240 号、60-69 頁。
呂叔湘主編（1992）『中国語文法用例辞典（現代漢語八百詞増訂本日本語版）』牛島徳次・菱沼透監訳、東方書店。

（2）中国語

李海霞（1994）“四川方言的被动式和“着””《西南师范大学学报》第 1 期，87-90 页
李荣主编（1998）《成都方言词典》江苏教育出版社
李炜（1987）“兰州方言给予句中的“给”—兼谈句子给予义的表达”《兰州大学学报》第 3 期，18-20 页
罗韵希等（1987）《成都话方言词典》四川省社会科学院出版社
施关淦（1981）““给”的词性及与此相关的某些语法现象”《语文研究》第 2 期，31-38 页
沈家煊（1999）““在”構文和“给”構文”《中国语文》第 2 期，94-102 页
沈明（2002）“太原话的“给”構文”《方言》第 2 期，1-3 页
向若（1960）“关于“给”的词性”《中国语文》第 2 期，66-68 页
徐丹（1992）“北京话中语法标记词“给””《方言》第 1 期，9-11 页
俞敏（1983）“北京口语里的“给”字”《语文学习》10 月号，46-37 页
曾为志、吴小龙、禹然（2022）《中国语言文化典藏成都》商务印书馆
张纯鉴（1980）“关于“介词结构作补语”的几个问题”《西北师大学报》，3 月号，80-82 页
張一舟、張清源、鄧英樹（2001）《成都方言語法研究》巴蜀书社
鍾隆林（1959）“略論現代語漢中的“給”字”《武漢大学人文科学学報》10 期，61-66 页
周磊（2002）“乌鲁木齐话“给”構文研究”《方言》第 1 期，2-5 页
周宗富（2015）《两代沧桑》白山出版社
朱德熙（1979）“与动词“给”相关的句法问题”《方言》第 2 期，1-3 页
朱德熙（1980）《现代汉语语法研究》商务印书馆

（3）中国語と英語

Omar L. Kilborn, M.A.,M.D.(1917) *Chinese Lessons for First Year Students in West China*. Published by The Union University（《民国四川话英语教科书》四川人民出版社）